

## 令和4年度北九州市立図書館の運営に関する評価について

### 「北九州市立図書館の運営に関する評価」の実施について

#### 1 評価実施の趣旨

図書館法第7条の3の規定に基づき、市立図書館全体の評価を実施し、図書館運営の改善を行うことで、市民にとってより身近な図書館を目指し、その利用を促すものとする。

なお、すでに指定管理者制度として評価を行っている地区図書館・分館を含め、指定管理者評価制度との整合性を図りながら、市立図書館全体で評価を実施する。

#### 2 評価実施の背景

(1) 図書館法改正(平成20年)により、「評価を実施し必要な改善に努めること」が新たに明記されたこと。

##### 図書館法(平成20年6月改正)

(運営の状況に関する評価等)

第7条の3 図書館は、当該図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない

(2) 「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」の改正(平成24年)により、「図書館サービスその他図書館の運営の状況について自ら点検及び評価を行うように努めること」とされ、「図書館協議会などにより第三者評価に努める」「インターネット等で、積極的に公表するよう努める」ことが明記されたこと。

##### 図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成24年12月改正)

第二 公立図書館、一 市町村立図書館、1 管理運営

(二) 運営の状況に関する点検及び評価等

- ① 市町村立図書館は、基本的運営方針に基づいた運営がなされることを確保し、その事業の水準の向上を図るため、各年度の図書館サービスその他図書館の運営状況について、
  - (一)の②の目標及び事業計画の達成状況等に関し自ら点検及び評価を行うよう努めなければならない。
- ② 市町村立図書館は、前項の点検及び評価のほか、当該図書館の運営体制の整備の状況に応じ、図書館協議会の活用その他の方法により、学校教育又は社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、図書館の事業に関して学識経験のある者、図書館の利用者、住民その他の関係者・第三者による評価を行うよう努めるものとする。
- ③ 市町村立図書館は、前二項の点検及び評価の結果に基づき、当該図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。
- ④ 市町村立図書館は、第一項及び第二項の点検及び評価の結果並びに前項の措置の内容について、インターネットその他の高度情報通信ネットワークをはじめとした多様な媒体を活用すること等により、積極的に公表するよう努めなければならない。

(3) 北九州市立図書館協議会から答申された「これからの図書館サービスのあり方」(平成28年7月)において、「開かれた図書館づくり」で運営に関する評価の実施を掲げていること。

### 3 実施方法

(1) 対象施設 全ての市立図書館

(2) 評価方法

#### 現状分析

ア 「基本的な方向性と目標」の達成状況の把握  
イ 「これからの図書館サービスのあり方」の 5 つの視点・50 の事業及び新規事業の取組状況の把握

#### 図書館評価

「これからの図書館サービスのあり方」の 5 つの視点ごとに、自己評価

#### 北九州市立図書館協議会評価

図書館法に基づく附属機関である「北九州市立図書館協議会」の評価

#### 公表

評価結果をホームページ等で公表

#### 改善

ア 改善すべき点の把握を行い、課題を整理し、課題解決に向けて何が必要かを検討する。  
イ 検討にあたっては、図書館協議会の意見や費用対効果を考慮しながら、市立図書館全体の視点で検討する。

### 4 スケジュール

令和 5 年 8 月 令和 4 年度の図書館評価のまとめ  
図書館協議会にて自己評価報告及び意見聴取  
令和 5 年 11 月 評価結果をホームページ上で公開（予定）

## 北九州市立図書館協議会委員

区分	氏 名	所属団体役職名
学校教育関係者	ほんだ ひさし	北九州市学校図書館協議会会長
	本田 壽志	石峯中学校校長
	うえみつ よしこ	北九州市学校図書館協議会副会長
	上満 佳子	松ヶ江北小学校校長
	たにがわ よういち	福岡県公立高等学校長協会北九州地区会長
	谷川 陽一	福岡県立小倉商業高等学校校長
家庭教育の向上に 資する活動を行う者	あそう きょうこ	(一社) 北九州市私立幼稚園連盟理事
	麻生 恭子	
	ふくだ ゆりか	(一社) 北九州市PTA協議会副会長
	福田 百合加	(一社) 北九州市保育所連盟副会長
	きたの くみ	
	北野 久美	(一社) 北九州青年会議所理事
すえよし ちぐみ		
末吉 智久美	公募委員	
やまなか ひろとし		
山中 啓稔		
社会教育関係者	みやもと かずよ	北九州市社会教育委員
	宮本 和代	
	よしまつ きみこ	北九州市婦人団体協議会監査
	吉松 喜美子	北九州市障害福祉団体連絡協議会会長
	はやし よしえ	
林 芳江		
あべ かずよ	北九州児童文化連盟副会長	
阿部 和代		
学識経験者	なかお やすし	北九州市立大学前図書館長
	中尾 泰士	
	やまぐち あきよし	九州国際大学図書館長
	山口 秋義	
すずき けん	公募委員	
鈴木 研		

# 北九州市立図書館の運営に関する評価

## I 基本的な方向性

- 1 これまでの図書館サービス（図書・資料の閲覧・貸出、レファレンス機能、情報サービスなど）をさらに充実させる。
- 2 市民が抱える課題の解決を支援する。
- 3 子どもの読書活動を積極的に推進していく。

## II 令和4年度事業目標

- 1 図書館サービスのさらなる充実を目的に、障害者サービス・多文化サービスを強化する。
- 2 市民の課題解決支援を目的に、「健康・医療」「福祉・介護・年金」「仕事を進める上での能力アップ」の視点からのサービスを充実する。
- 3 子どもの読書活動推進を目的に、子ども図書館を拠点として、学校関係者の人材育成支援・子ども司書などの養成に取り組む。

## III 総括

### ① 令和4年度 事業目標に対する達成状況

1. 図書館サービスのさらなる充実を目的に、障害者サービス・多文化サービスを強化する。
  - 市内の各図書館において、障害のある方等の読書困難者に配慮した資料（LLブック、朗読CDなど）の充実を図った。
  - 中央図書館において、障害者就労支援施設の協力による障害者サービス研修を実施し、職員の資質向上を図った。
  - 中央図書館ではやさしい日本語や外国語で書かれた利用案内リーフレットの配布、やさしい日本語で書かれた図書資料の収集など、多文化サービスの取組みを継続して行った。
  - 小倉南図書館では、アート作品の展示など、地域の障害者団体や特別支援学校との連携・交流を図った。
2. 市民の課題解決支援を目的に、「健康・医療」「福祉・介護・年金」「仕事を進める上での能力アップ」の視点からのサービスを充実する。
  - 市内の各図書館において、市民の問題解決に役立つ特定のテーマ（健康・医療、高齢者向け、ビジネス支援等）の資料を集めたコーナーの設置や館内展示に継続して取り組んだ。また、保健福祉局等と連携し、啓発月間等にあわせて、認知症啓発、発達障害啓発、児童虐待防止、自殺防止対策コーナーを随時設置した。
  - 複数の地区館でメンタルヘルズ講座、健康促進に役立つリンパマッサージ講座、起業や経営に関する課題を解決する無料経営相談会等を実施した。
3. 子どもの読書活動推進を目的に、子ども図書館を拠点として、学校関係者の人材育成支援・子ども司書などの養成に取り組む。
  - 令和3年度に新設した「北九州市子ども読書の日」に関連して、大学などとも連携しながら子どもの読書活動の機運を高めるためのイベントを実施し、前年度を上回る入場者数を記録するなど読書や図書館への関心を高めることができた。
  - 読み聞かせボランティア講座のうち、コロナ禍で一部中止していた講座を再開し、地域人材の育成を図ることができた。また、小中学生の図書館見学・職場体験件数の増加（前年度比）や学校等への貸出図書セットのさらなる充実や図書館職員（司書）・読み聞かせボランティアの派遣件数増加など、子どもの読書活動を支援するための取り組みを行った。
  - 折尾分館の移転新設に際し、ヤングアダルト向け図書を集中的に購入した。また授乳及びおむつ替えができる「赤ちゃんの駅」を設置するなど、子どもと一緒に利用しやすい図書館のための施設整備を行った。

## ②総合評価(事業別評価及び運営改善措置)

令和4年度の北九州市立図書館は、継続して新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、コロナ禍前の状態に近づけるため、図書館サービスの提供再開・充実に努めた。特に、コロナ禍で一時中断せざるを得なかった事業を再開したり、市民がより利用しやすい図書館となるための事業などを厳しい状況下でも取組を継続した。これらの取組も含め、全52項目のうち完了・終了事業を除く50項目について評価した結果は次のとおりとなった。なお、令和4年度評価においては、コロナ禍前との比較及び令和4年度末までの推移という観点で評価するため、各項目において令和元年度から4か年分の実績を記載している。

	A評価	B評価	C評価	D評価	評価実施項目数	評価しない
令和4年度	7	42	1	0	50	2
令和3年度	5	41	1	2	49	3

※令和3年度分は記載誤りのため一部修正

昨年度に比べ、全体的に評価は上昇している。これは国の行動制限の緩和を受けイベントや講座などが再開されたことによるものである。特に、令和3年度に新設した「子ども読書の日」に関連するイベントを始め、子どもが読書や図書館に親しみきっかけを多く創出することができたため、それに係る項目を高く評価した。また、図書館の利用状況についても、コロナ禍前と同等とまでは言えないまでも、全ての数値において前年度と比して上昇が見られ、北九州市立図書館として継続してサービスの提供に尽力した成果があらわれたと考えられる。

なお、令和4年度に指定管理者による不正行為(図書の貸出実績の水増し)があったことを踏まえ、図書館運営に対する市民の信頼を得ていくため、図書館におけるガバナンスやコンプライアンスの徹底を図っていく。

### 《参考資料》

#### 【利用状況の推移】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
貸出者数	909,340人	610,336人	753,590人	816,041人
貸出冊数	3,423,930冊	2,427,889冊	3,003,649冊	3,129,884冊
来館者数	2,276,653人	1,077,811人	1,512,386人	1,901,535人
レファレンス件数	32,737件	20,648件	23,963件	30,864件
人口1人当たりの貸出冊数	3.61冊	2.58冊	3.22冊	3.36冊

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、以下の期間において臨時休館を行った。

令和2年2月28日～5月3日(66日間)、同6月3日～6月23日(21日間)、令和3年5月12日～6月20日(40日間)

#### 【アンケートによる利用者満足度の状況(「非常に満足」・「満足」の割合)】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
①本の品ぞろえ	87.7%	87.8%	88.8%
②本の探しやすさ	91.7%	92.9%	92.9%
③調べ物の役立ちさ	82.6%	90.0%	94.5%
④展示・行事の内容	79.4%	87.3%	94.1%
⑤対応の親切さ	92.6%	94.3%	99.0%
⑥説明の分かりやすさ	87.6%	90.9%	98.4%
①～⑥の平均	86.9%	90.5%	94.6%

## IV 事業別評価及び運営改善措置

北九州市立図書館では、「これからの図書館サービスのあり方」の中に示された5つの視点に立った事業を行っている。その具体的取組50項目(終了・完了事業を除く)について、下記の基準を設けて評価を行った。

### <評価の基準>

A	取組みに前進が見られるもの(新たな取組みが行われた、あるいは、実績が高水準を維持したか伸びたなど、大変順調である)。
B	現状維持レベルのもの(継続的・安定的に取組みが行われたり、あるいは、実績が一定水準で維持されたなど、順調である)。
C	予定通りに進まなかったもの(予定通りに進まなかったり、実績が下降傾向にあったりするなど、やや遅れている)。
D	全く進展がなかったもの(全く進展がなかったり、取組みが行われていなかったりするなど、遅れている)。
-	評価しない(外的要因等により評価できない、又は前年度で取組が終了・完了した)。

## 視点Ⅰ 多様な施設とつながる図書館

※( )内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況
(1) 文学館などの文化施設との連携	①文化施設の情報発信  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">             図書館評価   <b>B</b>  <b>(B)</b> </div>	文学館、美術館、松本清張記念館などの文化施設への来館のきっかけづくりのため、文化施設の企画展情報を発信	<b>【取組状況】</b> ●子ども図書館では、文学館の企画展「かいけつゾロリ大冒険展」と連動して夏休み期間中に特別展示を行い、多くの子どもたちに「かいけつゾロリ」シリーズの本の貸し出しを行った。また、文学館の子どもノンフィクション文学大賞の特設コーナーを設置し、情報発信を行った。 ●八幡図書館では、北九州芸術劇場において、文化講演会を開催し、演劇の公演を行った。また、北九州芸術劇場と連携し、戯曲講座開催や自主事業「Re:北九州の記憶」の写真展を開催した。 ●他にも、各館において、自然史・歴史博物館、美術館、文学館、漫画ミュージアムなど各種文化施設の広報物を図書館内に掲示するとともに、施設の催事に連動した図書資料の展示を行った。  <b>【評価の理由】</b> ●関連イベントを実施するとともに、継続して多くの文化施設と連携し、情報の収集や発信に努めた。取組については回数、内容ともコロナ禍以前と同程度の水準を維持したため「B」評価と判断した。
	② 最寄りの文化施設の情報発信  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">             図書館評価   <b>B</b>  <b>(B)</b> </div>	各図書館において最寄りの文化施設の記録や資料を設置するなど、文化施設と連携した情報発信	<b>【取組状況】</b> ●中央図書館では、文学館が発行する文学館文庫や文学館主催文学賞の受賞作品収集や松本清張記念館、美術館分館、芸術劇場などの発行する出版物の収集を行った。 ●子ども図書館では、文学館、美術館分館、松本清張記念館、小倉城、北九州芸術劇場などの最寄りの施設の広報物を設置した。 ●門司図書館では九州鉄道記念館、若松図書館では河伯洞、八幡西図書館ではひびしんホールや子どもの館、戸畑図書館では美術館、八幡南分館では長崎街道木屋瀬宿記念館など、各館で最寄りの施設の広報物を図書館内に設置したり、施設の催事に連動して図書館行事を行ったりした。 ●八幡図書館では、「やはたアートフォレスト2022～パレットの樹～」実行委員として参加している近隣の施設のチラシやポスターを展示した。また、北九州市立響ホールと共催で朗読コンサートを行い、回遊性を持たせて互いの施設をアピールした。さらに環境ミュージアムで東山彰良氏講演会を開催し同施設の周知を行った。  <b>【評価の理由】</b> ●最寄りの文化施設と連携した情報発信を継続して行うことができたため、「B」評価と判断した。

# 視点Ⅰ 多様な施設とつながる図書館

※( )内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況
(1) 文学館などの文化施設との連携	③ 地元ゆかりの作家作品の充実  図書館評価  <b>B</b> <b>(B)</b>	市民と子どもたちのシビックプライドの醸成を図るため、各図書館や新設される子ども図書館での、地元ゆかりの作家や児童文学作家の蔵書の充実、企画展示の開催	【取組状況】 ●中央図書館の特設文庫「松本清張文庫」、子ども図書館の「私たちのまちの児童文学コーナー」「ふるさと再発見コーナー」、門司図書館の「佐木隆三コーナー」、小倉南図書館の「藤田博士顕彰コーナー」、若松図書館の「火野葦平コーナー」、八幡図書館の「みずかみかずよコーナー」、戸畑図書館の「宗左近記念室」など、各館において、地元出身作家などのコーナーを設け、関連資料の展示を引き続き行った。 ●中央図書館の北九州資料室を中心に、利用の多い松本清張作品の買替えや本市ゆかりの人物の著作を購入するなど各館において福岡県・北九州市ゆかりの作家の著作を積極的に購入し、充実を図っている。 ●子ども図書館が実施する「はじめての絵本事業」に、引き続き地元出身作家の絵本「あーそーぼ」を選定し、配布している。  【評価の理由】 ●地元ゆかりの作家の蔵書の充実と顕彰が引き続き図られていることから、「B」評価と判断した。
	④ 文化施設とのネットワークの構築  終了事業	文化施設とのネットワークの構築を図るため、中央図書館も文化施設の館長会議に参加	●会議が終了したため評価を行わない。
(2) 他施設との連携	⑤ 大学図書館との連携  図書館評価  <b>B</b> <b>(B)</b>	大学図書館とのネットワークの構築を図るため、 ・北九州市立大学や九州国際大学の図書館との連携の充実 ・市内にある他の大学図書館との連携の検討	【取組状況】 ●図書の相互貸借を北九州市立大学及び九州国際大学と、相互連携協定に基づき実施した。  【評価の理由】 ●上記以外の大学は、協定がなくても個別に相互貸借を行っており「B」評価と判断した。

# 視点Ⅰ 多様な施設とつながる図書館

※( )内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況
(2) 他施設との連携	⑥大学との連携 図書館評価 <b>A</b> <b>(B)</b>	大学図書館との連携に止まらず、大学教員などを講師に招いて、講演会や講座を積極的に開催	<b>【取組状況】</b> ●門司図書館では、九州工業大学による子ども向けの出前科学講座を開催した。 ●小倉南図書館では、北九州市立大学、地域自治組織と連携し、「若園タウンパレード」の開催に協力した。 ●八幡図書館では、大衆演劇に詳しい京都文教大学鶴飼正樹教授を招き、戦前から戦後にかけて地元八幡で活動していた少女歌劇団についての内容を中心とした講演を行った。 ●戸畑図書館では、九州工業大学と連携して「サイエンスカフェ」(37名参加)、児童向け実験イベント(27名参加)を開催した。 ●子ども図書館では、「北九州市子ども読書の日」のイベントにおいて、北九州市立大学地域共生教育センターの「“ブンガクの街北九州”発信プロジェクト」の学生が図書館をめぐるクイズラリーを行った。また、同じく「平和の駅運動プロジェクト」の学生が平和に関する資料を集めて館内に展示するとともに、平和に関する絵本の読み聞かせを行った。 ●中央図書館、八幡西図書館及び折尾分館において、図書館見学の受入、講師派遣、ボランティア派遣など、九州女子大学司書課程の学生と相互協力関係の下、様々な事業を実施した。  <b>【評価の理由】</b> ●大学教員を講師に招いての講座を開催したり、学生と協力して行事を開催したりするなど、連携に努めたため、「A」評価と判断した。
	⑦ネットワーク(連携)機能の充実 図書館評価 <b>A</b> <b>(A)</b>	中央図書館が地区図書館や分館へ助言や指導を行い、市立図書館のネットワークを充実	<b>【取組状況】</b> ●令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、全ての図書館の館長が参加する図書館連絡会議を毎月開催することは出来なかったが、令和4年度は毎月開催した。 ●地区図書館の選書担当者が参加して毎週開催する選書会議の場を活用して、新刊図書や推薦図書に関する情報ははじめ図書館サービスに関する様々な情報を全ての図書館と共有した。 ●中央図書館では、事件・事故・災害などの危機管理や市民対応について、地区図書館へ助言を行ったほか、公益通報制度について、地区図書館を運営する指定管理者への周知を図った。 ●子ども図書館は、学校と情報を共有し取り組みのベクトルを揃えるため、「児童サービス担当者会議」を開催し連携を図った。 ※令和4年度開催回数4回  <b>【評価の理由】</b> ●中央図書館及び子ども図書館を中心とした市立図書館のネットワークをより強化することができたため、「A」評価と判断した。



# 視点Ⅰ 多様な施設とつながる図書館

※( )内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況																														
(3)身近なネットワークの構築	⑧市立図書館における観光情報などの提供	市民と観光客を対象にした、北九州市の魅力発信を行うため、 ・中央図書館では全市の観光情報を提供 ・地区図書館では周辺地域の観光情報や地域情報を提供	<b>【取組状況】</b> ●中央図書館では、産業経済局MICE推進課の依頼を受け、カフェに広報誌「雲のうえ」コーナーを設置した。 ●小倉南図書館では、SDGsの展示の中で北九州市の取り組みを紹介した。また、市制60周年を記念して写真展や講演会を行った。 ●若松図書館では、「季刊ふるかわ」(旧古河鉱業ビル発行)のバックナンバーをすべてファイリングし、利用者閲覧可能とした。また、関門ノスタルジック海峡日本遺産展(図書館近隣の歴史的建造物)の特設展示を行った。 ●戸畑図書館では、市内各区制作の観光情報誌(小倉北区「COCURA」、小倉南区「南都」、戸畑区「飛幡」、八幡東区「虹色八景」、若松区「若松物語」)や歴史・街路探訪パンフレットの配布コーナーを設置した。  <b>【評価の理由】</b> ●コロナ禍の中、観光産業自体が依然として縮小傾向にあったが、各図書館において継続して情報の収集・提供を行い市の魅力発信に努めたため、「B」評価と判断した。																														
	図書館評価 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; font-size: 24px; font-weight: bold;">B (B)</div>																																
	⑨ひまわり文庫の充実	市民センターなどに設置した、ひまわり文庫の蔵書構成などの充実	<b>【取組状況】</b> ●市民センター等担当者との情報交換、利用者からのリクエストや貸出し傾向等によってニーズを把握し、利用が見込まれる図書の購入・配本に努めた。 ●他館からの管理換えや寄贈図書の受入れなどにより、図書の再活用とひまわり文庫蔵書の充実に努めた。  <b>【評価の理由】</b> ●図書館に来館することが困難な市民にとっては、市民センター等でひまわり文庫が利用でき、市民が身近に図書館の本を借りることができる場となっている。前年度に比べ、貸出者数、貸出冊数ともに増加しており、コロナ禍においては今まで以上に図書館を補完する役割を果たしているとして「B」評価と判断した。  <b>【運営改善措置】</b> ●ひまわり文庫についてより多くの人に知ってもらい、利用者を増やすため、市政だより等を通じてひまわり文庫の周知に努める。  <b>【ひまわり文庫の状況】</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設置施設</td> <td>129か所</td> <td>128か所</td> <td>128か所</td> <td>128か所</td> </tr> <tr> <td>配本数</td> <td>67,312冊</td> <td>73,751冊</td> <td>67,735冊</td> <td>64,779冊</td> </tr> <tr> <td>1か所当たり配本数</td> <td>522冊</td> <td>576冊</td> <td>532冊</td> <td>506冊</td> </tr> <tr> <td>年間貸出者数</td> <td>24,538人</td> <td>23,639人</td> <td>17,623人</td> <td>19,771人</td> </tr> <tr> <td>年間貸出冊数</td> <td>50,568冊</td> <td>55,490冊</td> <td>39,864冊</td> <td>42,455冊</td> </tr> </tbody> </table>		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	設置施設	129か所	128か所	128か所	128か所	配本数	67,312冊	73,751冊	67,735冊	64,779冊	1か所当たり配本数	522冊	576冊	532冊	506冊	年間貸出者数	24,538人	23,639人	17,623人	19,771人	年間貸出冊数	50,568冊	55,490冊	39,864冊	42,455冊
				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度																										
設置施設	129か所	128か所	128か所	128か所																													
配本数	67,312冊	73,751冊	67,735冊	64,779冊																													
1か所当たり配本数	522冊	576冊	532冊	506冊																													
年間貸出者数	24,538人	23,639人	17,623人	19,771人																													
年間貸出冊数	50,568冊	55,490冊	39,864冊	42,455冊																													
	図書館評価 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; font-size: 24px; font-weight: bold;">B (B)</div>																																

# 視点Ⅰ 多様な施設とつながる図書館

※( )内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況															
(3)身近なネットワークの構築	⑩貸出文庫登録施設数の増加  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             図書館 評価   <b>B</b> (B)           </div>	市民が気軽に本に接する機会を増やすため、幼稚園や保育所などの子育て関連施設や病院、高齢者施設などで利用されている貸出文庫の利用施設を増加	<b>【取組状況】</b> ●令和4年度は、保育園等に新規設置を行った。  <b>【評価の理由】</b> ●設置施設の増減はあるものの、さまざまな施設に安定して貸出文庫を設置できているとして「B」評価と判断した。  <b>【貸出文庫の状況】</b> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設置施設</td> <td>92か所</td> <td>91か所</td> <td>95か所</td> <td>96か所</td> </tr> <tr> <td>配本数</td> <td>22,240冊</td> <td>23,750冊</td> <td>21,662冊</td> <td>21,796冊</td> </tr> </tbody> </table>		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	設置施設	92か所	91か所	95か所	96か所	配本数	22,240冊	23,750冊	21,662冊	21,796冊
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度														
設置施設	92か所	91か所	95か所	96か所														
配本数	22,240冊	23,750冊	21,662冊	21,796冊														
<b>【北九州市立図書館協議会による評価】</b> 評価内容については、協議会として妥当と判断する。 大学や市の文化施設など様々な施設と連携していることが市民にわかるよう、ホームページや館内掲示などを活用して広報をすることを協議会として提案する。また、今後は県内で戦争遺跡が最も多くある市の図書館として、文化施設等と連携しながら、関連する郷土資料の収集・保存にも力を入れてほしい。																		

## 視点2 市民の課題解決を支援する図書館

※( )内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況
(1)レファレンスの強化	①相談内容のデータベース化	これまで長年積み上げてきたレファレンスの事例に、多くの市民が接することができるようにするため、相談内容とその回答をデータベース化し、ホームページで公開	<b>【取組状況】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●中央図書館参考資料室を中心に各館で受けたレファレンス事例を国立国会図書館レファレンス協同データベースに積極的に登録した。</li> <li>●登録件数:令和3年度 270件、令和4年度 236件。(平成30年以降毎年、新規登録件数多数や登録事例の被参照件数多数等により国立国会図書館から表彰を受けている。)</li> <li>●登録したレファレンスの内容については、市立図書館ホームページにレファレンス協同データベースのリンクを貼ることにより、随時、最新のコンテンツにアクセスできるようにしている。</li> </ul> <b>【評価の理由】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●レファレンス事例の積み重ねに努めるとともに、インターネットから容易にレファレンス事例にアクセス可能な状態を作っていることから、「B」評価と判断した。</li> </ul>
	図書館評価		
	B (B)		
②レファレンス担当職員的能力向上	図書館業務の基本となるレファレンスを担当する職員の能力向上を図るため、体系的な研修を計画、実施	<b>【取組状況】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●依然としてコロナによる影響で、集合研修については外部研修への参加、独自研修実施とも困難な面があったが、福岡県立図書館主催のレファレンス研修会には複数館から出席した。</li> <li>●国立国会図書館や文部科学省等が主催する研修会等でオンライン(ウェブ会議方式や動画配信)で実施されるものについては、移動を伴わずに受講することが可能であり、各館の職員が視聴した。</li> <li>●研修で学んだことを活かして、中央図書館では、北九州の郷土に関する「調べ方の近道案内」を作成、子ども図書館では子どもが調べものをする際の手助けとなる「調べもののおてつだい」をホームページに掲載した。</li> <li>●小倉南図書館では昨年度に続き、パスファインダーの項目を増やすなど取り組みを進めた。</li> <li>●八幡図書館では、ホームページにレファレンスのページを新設し、市民からのレファレンスとその回答を公開した。</li> </ul> <b>【評価の理由】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●困難な状況下にあっても様々な機会を捉えてレファレンス担当職員が研鑽に励み、実務にも活かしていることから、「B」評価と判断した。</li> </ul>	
			図書館評価
			B (B)
③レファレンス用図書・資料の充実	多様化・複雑化する市民ニーズに適切に対応するため、レファレンス用図書・資料を充実	<b>【取組状況】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●各館において、各種レファレンス用資料(事典・辞書類、図鑑、統計類など)の新規購入や新版への更新、行政資料の寄贈受入れなどを行った。</li> </ul> <b>【評価の理由】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●レファレンス用資料の充実に努めていることから「B」評価と判断した。</li> </ul>	
			図書館評価
			B (B)

## 視点2 市民の課題解決を支援する図書館

※( )内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況
(2) 特色ある図書館づくり	④課題解決支援のための分野別配架と講演会などの実施  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             図書館評価   <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; font-size: 2em; font-weight: bold;">B (B)</div> </div>	・標準的な配架法である「日本十進分類法」を基礎にしながら、市民が抱えている課題に対応するために、テーマごとに図書・資料を並べたり、特設コーナーを設けるなど、市民が図書・資料を探しやすいような分野別配架の実施  ・市民のニーズに応じて、「健康・医療」、「福祉・介護・年金」、「子育て・教育」など、分野別に体系立てた講演会や講座などを実施し、市民の課題解決を支援	<b>【取組状況】</b> ●各館において、市民の課題解決に役立つ特定のテーマ(健康・医療、高齢者向け、認知症、ビジネス支援など)の資料を集めたコーナーの設置や館内展示に取り組んだ。 ●中央図書館でガン情報コーナーを設置する等各館で医療情報や健康に関するコーナーを設置している。各館において保健福祉局等と連携し、啓発月間等にあわせて、認知症啓発、発達障害啓発、児童虐待防止、自殺防止対策コーナーを随時設置した。 ●門司図書館、小倉南図書館、八幡西図書館及び島郷分館ではメンタルヘルス講座などを、若松図書館及び戸畑図書館では、起業や経営に関する課題を解決する無料経営相談会を開催した。また、戸畑図書館では、健康促進に役立つリンパマッサージ講座を開催した。 ●八幡図書館では、歴史講座、歴史教養講座、戯曲講座、朗読講座などを開催した。 ●子ども図書館において、引き続き、 ・平和学習コーナー ・読書感想文特設コーナー ・季節ごとの企画展示コーナー ・地元出身作家コーナー ・世界の絵本と地図のコーナー など、工夫をこらしたコーナーを設け、子どもたちの課題解決支援を行うことができた。 ●子ども図書館において、世界自殺予防デーや自殺予防週間に合わせ、「心がホッとする」をテーマに子どもがゆったり過ごせる特設コーナーを設置した。 ●子ども図書館及び各地区館・分館に子育て支援コーナーを設置し、妊娠出産や育児・子どもの遊びなど関連本をまとめて配架し、利用しやすい環境を整えている。  <b>【評価の理由】</b> ●コロナ禍ではあるものの、感染対策を徹底した上で、課題解決支援のための図書の分野別配架や資料の充実、講座の開催などに積極的に取り組むことができたため、「B」評価と判断した。

## 視点2 市民の課題解決を支援する図書館

※( )内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況
(2) 特色ある図書館づくり	⑤地域の特性などを活かした図書館づくり  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             図書館評価   <b>B</b>  <b>(B)</b> </div>	特色のある図書館づくりのため、各図書館が地域の特性や地域住民のニーズに応じた図書・資料の配架や講演会などを重点的に実施	<b>【取組状況】</b> ●門司図書館では、懐かしの映画の上映会やその関連本の展示、古典や歴史に関する講座と関連本の展示、本を手にとりやすいよう、書架の位置替えや整理を行った。 ●小倉南図書館では、読書活動コーナーにおいて小倉南区の城跡、遺跡についてのパネル展示、地域の障害者団体、特別支援学校のアート作品の展示を行った。 ●若松図書館では、高齢者が多い地域のため、高齢者が本を選びやすいよう配慮した配架やシニアコーナー、高齢者就労支援資料コーナーの設置を行った。 ●八幡図書館では製鉄所・世界遺産関連、戸畑図書館では1960年代の戸畑区婦人協議会による環境活動、曾根分館では地域に多い農業従事者向けの園芸関係の本など、周辺の歴史や産業に関連した図書の充実やコーナー設置を行っている。 ●八幡西図書館では、実行委員会からの依頼を受け、タウンシップデーである黒崎96の日へ参加した。 ●大里分館、曾根分館、八幡西図書館では、子育て世代や児童の利用が多いため、子育て支援関連本や子ども向けの学習漫画やクイズ本などの収集を充実した。 ●島郷分館では、併設の市民センタークラブ利用者に向けた趣味コーナー(パソコン、ヨガ、絵画、写真)を設置している。 ●八幡図書館では、八幡の風景にまつわる切り絵講座を、八幡西図書館では、地域での要望が多かったメンタルヘルス講座を開催した。  <b>【評価の理由】</b> ●コロナ禍ではあるが、感染対策を徹底して、徐々に講演会や講座を開催できており、各館において、地域の特性を活かした資料収集や提供を継続的に進めることができたため、「B」評価と判断した。
	⑥郷土資料の充実  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             図書館評価   <b>B</b>  <b>(B)</b> </div>	地域の歴史や文化を次世代に伝えるため、地域の郷土資料を充実	<b>【取組状況】</b> ●各図書館において、購入及び寄贈により郷土に関する図書資料の受入れを行った。 ●子ども図書館が実施する「はじめての絵本事業」に、引き続き地元出身作家の絵本「あーそーぼ」を選定し配布した。 ●子ども図書館の本市の産業や取り組みを紹介する「ふるさと発見コーナー」、八幡図書館の八幡製鐵所関連コーナーなど、各館において、郷土の特色や地元ゆかりの作家などを紹介する特設コーナーを引き続き設置し充実に努めた。 ●子ども図書館では、「中村哲物語」や「平和への遺言」などの資料購入及び寄贈受入れを行った。 ●門司図書館では、お尋ねの多い門司、下関に関連する図書資料を集めるようにした。 ●戸畑図書館で八幡製鐵所に関する資料の寄贈受入を行うなど、各館の所在区の特色を反映した資料の収集に努めた。  <b>【評価の理由】</b> ●郷土資料の収集を着実にを行うとともに、市民に郷土の魅力を紹介する取り組みを継続的に進めていることから、「B」評価と判断した。

## 視点2 市民の課題解決を支援する図書館

※( )内は、前年度(令和3年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況
(2)特色ある図書館づくり	最寄りの文化施設の情報発信  再掲 視点1②	各図書館において最寄りの文化施設の図録や資料を設置するなど、文化施設と連携した情報発信	(略)
	地元ゆかりの作家作品の充実  再掲 視点1③	市民と子どもたちのシビックプライドの醸成を図るため、各図書館や新設される子ども図書館での、地元ゆかりの作家や児童文学作家の蔵書の充実、企画展時の開催	(略)
	市立図書館における観光情報などの提供  再掲 視点1⑧	市民と観光客を対象にした、北九州市の魅力発信を行うため、 ・中央図書館では全市の観光情報を提供 ・地区図書館では周辺地域の観光情報や地域情報を提供	(略)
【北九州市立図書館協議会による評価】			
地域の特性などを活かした図書館づくりについては、各図書館の努力が認められるため評価を高くしてよいという意見もあった。次年度はA評価となるよう、各図書館のさらなる活動を期待する。その他の項目については妥当な評価である。			